

## 集会案内

### 日曜日

礼拝 : 2:00pm-2:45pm

### 教会住所

c/o Grace Hills Church  
24521 Moulton Pkwy  
Aliso Viejo, CA 92637  
中庭の小さいチャペル

### 地図



### ホームページ

[www.irvinenihongokyokai.org](http://www.irvinenihongokyokai.org)

### 榊原宣行牧師

電話(714)827-6244

Eメール: nobu@occc.org

### 杉村宰牧師

電話 (714)527-1456

Eメール:sugimura1950@gmail.com

### ◎石叫■

### 「共に死ぬ」

豪華客船タイタニック号が遭難した一九一二年の四月十五日のことである。インドル&アイダ・ストラウス夫妻はそこに同船していた。彼らは結婚して四十年という仲睦まじい夫婦であった。インドルはデパートメントストア「メイシーズ」の協同経営者の一人として頭角を現し、一八九四年からは国会議員としても活躍していた。船が氷山と衝突し、沈んでゆく最中、二人はどんなことがあっても、とにかく最後まで一緒にいることをそこで確認し合った。救命ボートが降ろされた時、「婦女子が最初に乗るように」と船長からの命令がくだったが、それはアイダが最初にボートに乗り、夫が後に残されることを意味していた。だが、アイダが乗り移る番が来た時、彼女は「私たちはこれまで一緒に生きてきた。私は夫を愛している。だから死ぬ時と一緒にです」と船員に叫んだ。その直後、そこにいた船員の一人が、「インドルさんは前任の国会議員だったので、一緒にボートに乗っても構いません」と言ってくれたのだったが、彼は「今まさに沈もうとしている船に女子供が残っている時、自分だけが助かるわけにはいかない」と言って断った。後で助かった者たちが、二人の様子を見て、「インドルとアイダは船が海中に没するまで、しっかりと手を組み、抱き合って身を切るような大西洋の冷たい氷の海に沈んでいった」と『ニューヨーク・タイムズ』で証言している。後日、インドルの遺体は発見されたのだったが、アイダのものは見つかることができなかったという。(『フォーカス・オンザ・ファミリ』二〇二二年四月号の「ブルティン」より)

パウロは「私はキリストとともに十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである」(ガラテヤ二・19&20)と語っている。これは、人の罪は死ぬことなくして消し去ることができないほどに根深いが、生きている者が主イエスを信じる時に、その罪が主によって消し去られるのみか、主と共に生きることができるといふ信仰の奥義を指している。主の十字架というのは、そのように今の私たちが生き生きとした信仰に導いてくれるのである。かつて「007は二度死ぬ」という言葉がはやったことがあったが、逆に信仰者は人生を二度生きるのである。

Rev. Tsukasa Sugimura

### 「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。現在は、榊原宣行牧師の監督のもと、杉村宰牧師と啓子師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と、信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集会を開いております。

### 「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令(マタイ28:18-20)に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。